

吉田川河道掘削工事 事業進捗報告会（開催）

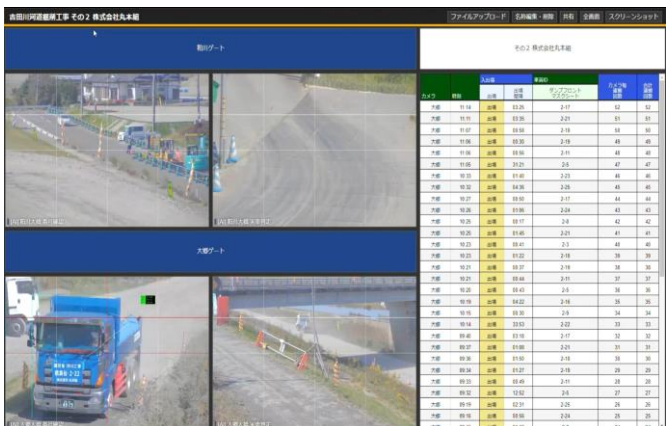
- 令和元年台風第19号によって被災した大郷町の行政区長や役場職員に対して、大規模災害関連事業の進捗状況に加えて、全国初となるAIを活用したダンプトラックの入退管理やGNSSによる車両移動履歴の共有による施工計画の検討を事業全体で取り組んだ事例の報告会を開催。
- 最新技術を活用した取り組みの紹介の際には、R5河道掘削工事協議会の会長である若生工業(株)、副会長である(株)阿部土建、(株)丸本組、事業対策課からそれぞれ担当した最新技術について説明を行った。
- 参加者からは、「事業によって、目に見えるほど水害の頻度は減少している。日頃から河川の整備に尽力していただいて本当にありがたい。」や「町道や我々一般の車両が通るところが、渋滞していると感じることがなかった。」などの感謝の言葉をいただいた。



▲会場の様子



▲渋滞シミュレーション(Smart Construction (株)EARTHBRAIN)



▲AIカメラによる入退管理システム(Arkit)



▲粕川地区堤防復旧の概要(北上下流)



▲北上川下流河川事務所と河道掘削工事協議会(後列)



▲中粕川地区長からの声

町道とか我々一般の車両が通るところが渋滞したとは感じられなかった

地元住民

大郷 東日本台風 吉田川河道掘削工事 AI活用「ダンプカー渋滞」大幅減 2026年3月までに完了予定